■相談受け付けています
家族の病気のこと、女性ならではの体の悩みなど、医師に聞いてみたいことを、〒700-8634 山陽新聞社 広告局 企画開発室「レディアホームドクター係」まで郵便でお寄せ下さい。
メールで送る場合は ledya-doctor@sanyo.oni.co.jpへ。プライバシーは厳守いたします。

■レディアホームドクターのホームページ
山陽新聞ホームページ（http://www.sanyo.oni.co.jp/）内にある「暮らし・話題」のホームドクターをご覧ください。

レディア ホームドクター

「脚の血管のコブ（下肢静脈瘤）」について

下肢静脈瘤は脚の静脈が太くなって蛇行している状態を言います。毛細血管が拡張して花火やペンで絵を書いたようにみえるものから太く盛り上がりグニャグニャと蛇行するタイプまでさまざまです。症状は、無症状から皮膚潰瘍（かいよう）までさまざまです。一般には脚のだるさ、むくみ、こむら返りで悩んでいるケースが多いようです。女性の場合、脚を出して歩くのが「はずかしい」のでスカートをはかない。旅行先で温泉にはずかしくて入らない。プールに行きたくても行けない。このように外観上の問題で困っている話もよく聞きます。男性の方は、普段から脚を露出することが少なく、その上、仕事が原因で静脈瘤になっている場合があり放置されることが多いので重症化することがあります。

下肢静脈瘤は深部静脈血栓症の後遺症として生じる二次性のものと、生まれながらの血管の弱さと環境要因が重なって生じる一次性に分けられます。女性の場合には妊娠出産、便秘、立ち仕事など、男性では立ち仕事が静脈瘤の増悪因子になります。その結果、静脈に特有な逆流防止弁が壊れてしまい、血液が心臓に戻れなくなってしまうわけです。そして、脚に血液がたまる「うっ血」が起こります。つまり、静脈の高血圧状態になるために血管が拡張し伸びて蛇行するわけです。さらに、長い間「うっ血」が続くと細胞の代謝産物が静脈から周囲の組織に漏れて「かゆみ・湿疹」「こむら返り」などの原因になっていると考えられます。

単に「血管のコブ」だと思われている静脈瘤ですが、その発症の基になっているのは「循環不全」なのです。

「どんな場合に治療を受けた方がよいのですか？」とよく質問を受けます。百点満点の答えはないのですが

①うっ血症状が見られる場合（だるさ、むくみ、こむら返りなど）
②合併症（湿疹、脂肪織炎、色素沈着、皮膚潰瘍など）がある場合
③血栓性静脈炎を繰り返す場合
④外観上の問題（生活の質の改善）

などが考えられるのではないでしょうか。特に、急に血管が膨らみ痛む場合は血栓性静脈炎の可能性が高く、時には入院の上、緊急手術が必要になることがあります。

治療法は、(1)液の逆流を止める治療 (2)膨らんだ瘤の治療に分けて考える必要があります。重要なのは、逆流を止めて循環不全を改善することにあります。現在は病院に泊まる必要のない治療法がありますので、今まで気になっていたけどなんとなく様子を見ていた方も早めに専門医を訪ねてみてください。

解説医師
諸國（しょこく） 眞太郎 先生

Profile
医療法人社団操仁会 理事長
岡山第一病院 下肢静脈瘤日帰りセンター長＊
諸國眞太郎クリニック院長＊＊
1981年岡山大学医学部卒業、同第二外科に入局。1994年岡山大学付属病院勤務。末梢動脈疾患、下肢静脈瘤など血管外科に携わる。2007年4月から現職。

＊ 岡山市高屋343 TEL.086-272-4088
＊＊岡山市錦町11-17 OWLSTYLE錦町2 4F TEL.086-224-1313
URL：http://www.varix.jp
e-mail: laser@varix.jp